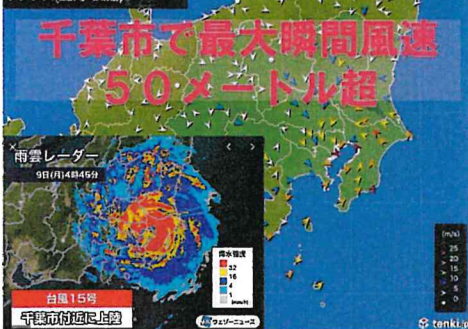


# さわかぜ

発行責任者: 三和地区社会福祉協議会  
 会長 泉水 房治  
 編集: 三和地区社協 広報部  
 事務局: 三和保健福祉センター内  
 (サンハート内)  
 電話: 0436-37-7100

## sanwa chiku-syakyo

2019年09月09日04時20分  
 アメダス(風向・風速)



## 安心・安全に暮らせる 地域づくりに向けて

三和地区社会福祉協議会において安心・安全を担うとしており、私たちが安心・安全活動の基本目標として「みんなが安心・安全に暮らせる地域づくり」を掲げ、①地域住民の緊急時対応体制の構築②子供の安全・安心を守る活動③地域の安全を守る活動④災害時の助け合い活動を柱に、各地域から選出された理事の皆さんを委員とした組織活動を推進しております。

今回、強風を伴う台風15号(9月9日未明)の直撃を受け、多くの被害が発生しました。その後も19号(10月12日)、21号(10月25日)と、2カ月足らずに3つの台風被害に曝されました。安心・安全部では、取り分け被害の大きかった15号における風害について三和地区内の被災状況アンケート調査を実施致しました。その結果につきまして、下記にご報告申し上げます。地域組織として緊急時に必要と備えとは何か、共に助け合う共助の体制をどう構築していくのか、検討の一助としてまいりたいと思っております。



三和地区  
社会福祉協議会  
安心・安全部 部長 高山 弘

## 台風15号 三和地区内 1,000戸を超える住宅被害!

被害状況  
アンケート調査

	町会数	有回答	無回答	回答率	被害確認状況				住居被災状況			生活道路 被害箇所	町会内復旧取組状況				停電 日数
					町会長	率	自主防	率	被災町会	被災戸数	被災率		町会組織	率	隣り近所	率	
市西地区	13	11	2	85%	9	82%	2	18%	10	490	69%	17	6	55%	5	45%	3.8
養老地区	10	10	0	100%	9	90%	3	30%	9	210	49%	21	4	40%	6	60%	4.2
海上地区	8	7	1	88%	7	100%	7	100%	7	228	59%	13	4	57%	6	86%	4.0
光風台地区	14	9	5	64%	8	89%	2	22%	8	198	2%	無記入	2	22%	4	44%	3.3
合計	45	37	8	82%	33	92%	14	45%	34	1126	45%	51	16	43%	21	57%	3.8

(注1)

注1=無回答町会は集計から除外

注2=地区被災戸数は概算要素を含む

(注2) (注3)

注3=被災率は町会単位の単純平均値

では、実害はどうだったのでしょうか。調査では「何らかの家屋被害の有無を問いかけた結果、地域全体では1126戸が家屋被害を受けた」と回答しています。

地区別の被災概算率は、光風台を除く3地区で約6割、三和地区全体の被災(単純平均)でも45%の家屋被災に達します。

また、生活道路においても倒木や飛散物による通行障害が、地区内51箇所発生していたことが解りました。こうした事態に、それぞれが対応できたのか、倒木や町会公共建造物(会館や寺

宮等)への復旧にあつては、各町会が組織的に動いたことが見える反面、個人宅被害については、隣近所・仲間内での応急対応が主体であったと記述されています。

## 組織的共助 体制の課題

被災状況の確認は? それぞれの町会(自治会)において、被害状況をどのように確認したかの設問に対し、町会長自ら巡回した町会が3町会、また自主

防災(町会により組織の有無が異なる)としても点検活動に取り組んだ町会が14町会。結果として、それぞれの町会とも何らかの形で被害の掌握に努めた様子が解ります。

アンケート集計(上表は、三和地区45町会の町会長より回答有回答37町会)を頂いた結果を集計したものです。台風15号がもたらした被害の大きさ、その概要が明らかになりました。

## 考えたい 既存対策の補完

今回の台風は、私たちにとって過去に経験のない被害をもたらすと同時に、災害への備えがどうあるべきか、多くの教訓を残したと言えます。

暴風対策や水害への備えはもとより、身の安全を如何に確保するかに至るまで、既存の災害対策が決して十分ではないことを示しています。

今後、地域の安全・安心を如何に補完すべきか、それぞれの自治会(町会)、その集合体である三和地区(45町会)のあるべき姿をみなさんと共に検討してまいりましょう。



調査結果が語ることは何か!





## 回顧録

シリーズ ②

元日本航空 国際線パイロット

前田 佳正

コバルトブルーの波間に陽光が煌めく。低空を飛ぶ対潜哨戒機ならではの光景だった。昭和39年5月、私は四国の徳島航空隊に所属し、国防の最前線となる海上警備（哨戒任務）にあたった。搭乗機はS2Fトラッカークラと呼ばれる対潜哨戒機。元々この機は艦載機として設計された機体であり、両翼のエンジンから先の翼を折りたたむことが出来る。乗員はパイロットと、低速飛行する。こ



対潜哨戒機/S2Fトラッカークラ

2名、レーダー員1名、探知機器操作員等2名の計5名。その任務は領海内での不審船舶の監視や遭難情報船舶の捜索救助もその役割だった。一般旅客機と異なり哨戒機は低速低空飛行が特徴であり、巡航飛行であっても1万フィート（3000m）以下で飛行し、海面上では15m程の超低空飛行も可能だ。その速度は、140ノット（対地速度で1205140km/h）と、低速飛行する。こ

## 心に決めた国への奉公 その期限10年が迫る

のため、航続距離は短く2千5百〜2千8百km程。滞空時間では6時間程が限界だった。現在の航空機との最大の違いは、航法にある。今でこそGPSで現在位置はリアルタイムで表示されるが、当時は、地上局からのビーコンを受信し位置をだす電波航法か、推測航法しかなかった。このため、副操縦士は、常に飛行進路と速度、受信ビーコン波から現在地を割り出す重要な役割を担っていた。ある時、飛行中の天



〔全国唯一の市原交通事務所〕

三和地区社会福祉協議会をはじめ、各町会の皆様には平素より当所の運営に御理解と御支援を賜り、厚くお礼申し上げます。当所は、昭和43年3月、現在地に移転して以降、地域の皆様により、支えていただき本年で50周年を迎えました。全国で唯一の「交通刑務所」として、交通事故受刑者に対し、再犯再行を防止するため日々処遇を行っておりますが、施設の適切な運営には、関係機関の連携、取り分け地域の皆様のお力添えが不可欠です。今後も相変わらぬ御協力を賜りますようお願い申し上げます。併せて、当所の見学会や即売会の機会に是非とも足をお運び頂きますようお願い致します。



＜ 人気商品には早くも人垣が！（オープン直後の会場）＞

11.03＝文化の日

## 三和地区福祉バザー開催

150名強の来場者 / 売上金 217,710円

地区社協・恒例の一大イベント・福祉バザーが、11月3日（日）、三和コミュニティセンター体育館で開催されました。この事業は、地区内45町会の皆様からの献品とご寄付の下に運営され、日用品から衣料・台所用用品にまで、注目を集めた風見舞い。宮城県南三陸町・西城耕也様より寄贈される。三和地区社協は、これまで東日本震災の復興支援として宮城県女川町の物産展示販売等に協力してまいりました。これに対し、当地を襲った台風15号被害への被災見舞いとして、同県



に至る沢山の品々が廉価で販売されました。当日の来場者は150名を超え、売上金は21万7千7百10円（寄付金含む）に達しました。この収益金は、市社協を通じて地域福祉事業に還元されることとなります。

## 10.21→光風台地区 坂上・百合ヶ丘・みすみ町会 「丘の上サロンの会」開設



〔光風台小の近隣百合ヶ丘公民館が会場です〕

〔初代会長・北代さん〕

光風台地区内の坂上町会・百合ヶ丘町会・みすみ町会が組織された小域ボランティアチームが一つになり、通いの場「丘の上サロンの会」を立ち上げました。光風台地区では、既に地区自治会館で同様

### 寄稿

さわかぜに寄せて

旭台町会長・市原刑務所庶務課長

深澤 豊

初代会長を務めて頂く北代格さんは、「高齢者の皆様が、住み慣れた地で、生涯の健康維持に努めながら楽しい時を過ごせるよう運営に工夫を凝らしたい」と抱負を語っていました。現状の開催日は、毎月第3月曜日、13時半から15時半、参加費百円で取組んでいます。来月4月からは週次開催を目指すことから、ボランティアスタッフもメニュー構成に力をつけています。地域の皆様の積極的なご参加をお待ちしております。お問い合わせは03-614735古川まで